

①の基本データ

記述項目	記載事項
資料群名	陸奥国弘前津軽家文書
番号	22B/683
表題	(陸奥国津軽郡・上野国勢多郡のうち4万7000石知行につき朱印状)
年月日	寛文4年(1664)4月5日
差出人	(徳川家綱)
宛所	津軽越中守とのへ
形態	状(縦紙)
数量	1(包紙とも)
ノート	<p>原文書は国文学研究資料館所蔵。国文研での表題は「巖有院様(家綱)御朱印状 写共」。</p> <p>津軽越中守は弘前藩4代当主の津軽信政のこと。津軽左京は信政の従兄弟の津軽信敏(黒石領主)、津軽一学は信敏の父の津軽信純。</p>

陸奥國津佐郡心方子石
 上野國碓氷郡心方子石
 心方七子石 圓録在別紙
 津佐左京子石津佐一學子丁
 心方子石
 全丁願知也 仍如件

寛文四年心方石



(朱印)

津佐越中石

②の基本データ

記述項目	記載事項
資料群名	信濃国松代真田家文書(寄託分)
番号	776
表題	
年月日	(万治元年:1658)10月14日
差出人	(真田)伊賀守信澄
宛所	玉川左門殿
形態	
数量	1
ノート	原文書は国文学研究資料館所蔵。国文研での表題は「(真田信澄書状)」。「一当様」とは松代藩初代藩主の真田信之のこと。「伊賀守信澄」は信之の孫(長男信吉の子)で上野国沼田藩主。玉川左門は真田信之の側近役人と思われる。信之は、この3日後の万治元年10月17日に死去(93歳)。

一等入心 一書様

清親公の御書

一筆度なる御書

振神建公の御書

名師の御書

御書

披讀の御書

伊賀守

十月十日
御書

玉川公

②(拡大)

一筆入心一筆様

清見草書心法

一筆度力家法

振神建心法

名師師大能師一筆様

心法心法心法

披者心法心

伊藤

十月十日
信

玉川

③の基本データ

記述項目	記載事項
資料群名	陸奥国弘前津軽家文書
番号	22B/1369
表題	
年月日	
差出人	
宛所	松平伊豆守殿・戸田采女正殿・太田備中守殿・安藤 対馬守殿
形態	状(豎継紙)
数量	1
ノート	原文書は国文学研究資料館所蔵。国文研での表題は「帰国御 暇之節仮養子願」。津軽越中守は弘前藩9代藩主の津軽寧親 (やすちか)のこと。宛所の松平伊豆守ら4名は幕府の老中。 文書の差出人部分には押印と花押の両方がある。

今度私儀在所江之

御暇被下置候未男子

甚以坐以若於在所不意儀

以坐以者私分知同姓吉之助儀

當午十二歳罷成以此者養子

被仰付貳式被下置候様

奉願候以上

寛政十戊午年

四月十九日

津輕越中守



風

松平伊豆守殿

戸田采女正殿

太田備中守殿

安藤對馬守殿

④の基本データ

記述項目	記載事項
資料群名	マリオ・マレガ収集資料
番号	Marega.A14.3.4.9.8.1
表題	
年月日	
差出人	
宛所	
形態	
数量	1
ノート	原文書はバチカン図書館所蔵。臼杵藩の家老が幕府の宗門改役に提出した文書の写(控)。万次郎は臼杵藩9代藩主である稲葉治通の幼名(父の急逝により、この年の5月に幼少にて藩主となる)。

1828

Ms. B. 2. 1. 1. 1. A. 1235 PM

押札三枚 茂田系

貴後國海船五隻 船中凡有
 古切又丹茂田之團 又堤長 併江船
 不中其心 亦如生口 利百 船中人 因就
 膏已 可月 日七 拾九 乘 致 病 船 後
 正刻 換使 若 色 水 船 抄 改 船 船
 係 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是
 且 如 守 右 有 船 亦 後 打 於 福 崇 寺
 古 葉 如 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉
 細 少 之 月 利 抄 說 文 若 及 若 若 若

之文二丁巳年六月廿九日 華人名利

法信

本下作等字樣

之完固守字樣

法信所書